

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和3年度第1回さがみはら地域づくり大学運営委員会				
事務局 (担当課)		市民協働推進課 電話042-769-9225(直通)				
開催日時		令和4年2月14日(月) 午後1時30分～3時				
開催場所		WEB開催(相模原市役所 第1別館1階 第2会議室)				
出席者	委員	4名(別紙のとおり。1名欠席)				
	その他	2名(指定管理者)				
	事務局	4名(市民協働推進課長、他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>議 題</p> <p>1 令和3年度の運営状況について(報告)</p> <p>2 令和4年度の講座内容等について</p> <p>3 その他</p>				

主な内容は次のとおり。

議 題

1 令和3年度の運営状況について（報告）

指定管理者及び事務局より資料に基づき説明と報告を行った。

【主な意見等】

(竹田委員)8月1日実施の公開講座の状況を教えて欲しい。

(事務局)3部形式で、市内で活動している2つの団体と、八王子市市民活動支援センターの方に講師を依頼、受講人数は延べ82名であった。

(竹田委員)これからはオンライン開催をやっていかないと難しい。緑区や中央区の市民が参加しやすいなどのメリットもある。オンラインで実施するにあたっての課題と、今後の対応についての事務局の考え方を伺いたい。

(事務局)座学講座はZOOMで対応した一方で、ファシリテーション等のグループワークを行う講座は、極力、対面で対応している。当日休んだ方には後日の録画閲覧などのフォローを行った。

(指定管理者)対面講座については換気対策、参加者を把握した上で実施した。令和3年度の子育て支援講座は完全オンライン対応で開催している。オンラインだからこそ参加できる人はいる。また、学生まちづくり講座では、濃厚接触者に該当する学生もあり、ハイブリット開催も検討している。

(竹田委員)オンラインだからこそ参加できる人が多くいるのではないかと感じている。一方で会議でも書面だと意見を言いやすい人もいることから、ハイブリットは良いのではないか。募集チラシでも前面に出すと良い。

(指定管理者)実際の運営では集客の問題がある。人数が少なく、一時開催が危ぶまれる講座もあった。集客の方法を構築する上で、受講者の満足度も重視する必要がある。特に卒業した人、コーディネーターズサークルのメンバーのフォローアップがマンパワー的に弱いため、しっかりと情報提供ができるよう、市や他施設、他団体と協力して取り組んでいきたい。

(水澤副委員長)受講生がコースを卒業しても活動に繋がっていないのが課題である。自分たちで講座を企画して、集客して、開催する必要があるのではないか。

(中邨委員長)卒業者の活動は大学が始まった当初から課題となっており、民間企業であれば事業として継続できない。コロナ禍でメンバーが集まりづらい面もあったが、市も指定管理者も真剣に考える必要がある。これまでの運営委員会でも同様の課題があがっているが、なかなか成果に結びついていない。

(水澤副委員長)専門講座で、人を集めるのが大変との話があったが、コーディネーターズサークルにて講座を企画して開催してもらうのが良いと思う。大変だと

思うが、学んだことを活かす成果となる。

(事務局)令和4年度からは「市民企画講座」を設定しており、団体に主体的に講座を企画運営していただくイメージである。

(竹田委員)受講者が何を聞きたかったのか、これを学びたいという意見があれば、講座に取り入れていけるとよい。

(渡邊委員)地域づくり大学を活性化していくことが課題であると認識している。卒業生が講座を開催することで、実践例の一つとして自信や活性化につながり、知り合いにもネットワークが広がる。集客の面での課題としては、公開講座では延べ82名が集まっているので、どのような講座であれば参加してもらえるのか、どういったところから情報を得たのかなど丁寧に分析する必要があると思っている。

(中邨委員長)集客、卒業生への対応、新しい卒業生のグループ化は、従前から意見としてあがっていた。できなかったことについては理由を分析し、報告して欲しい。

議 題

2 令和4年度の講座内容等について

令和4年度の講座内容案について報告及び検討を行った。

【主な意見等】

(水澤副委員長)若い主婦、高齢者、現役世代などをターゲットにした講座もあるが、参加者の年齢層の傾向が分かると講座を考える際の参考になる。

(竹田委員)社会貢献をしたい若い社会人男性の中には、実際に何をしたいのか自分でははっきり分からない人もいる。地域情報誌に広告を出しても、地域づくり大学を知らない、知っていても参加まで行きつかない人がいる。最近は企業でも社会貢献をなささいと言っている状況もある中で、そういう人がいることを前提に、どうやってその情報をその人に届けるかを考える必要がある。

(指定管理者)令和3年度は、「何か」をしたいと受講申し込みをしている人も多い。受講が終わる時にその「何か」をつかめているかに課題がある。地域づくり大学では仲間作りが一つのポイントだと思っており、講座で机を並べる中で、つながりを持って次のステップに発展できる内容にしていきたい。講座内容も大事だが、受講生同士の横のつながりができるようなプログラムができると良い。

(事務局)齊藤委員から事前にいただいた意見としては、せっかくユニコムで実施するのだから、ユニコムを利用する地域団体であったり、近隣大学・学生とのコラボにより講座を企画運営することが集客につながるのではないかとのお話があった。

(中邨委員長)市長が変わって3年の間に、市長からは地域づくり大学を見直す必要性についての意見はあったのか。

(事務局)市長からは、あじさい大学や市民大学との合併に関する意見をもらっている。高齢者向けの生涯学習を主な目的とした両大学は令和4年度からは合併することとし、地域づくり大学は地域活動に携わる人材の育成、実際に活動するために役立つ講座として、現時点では別枠で引き続き実施することとしている。

(渡邊委員)地域づくり大学も含めたユニコムの実業や活動について、交通の便など立地が良いのもっと施設を有効活用できるとよい。施設で何をしているか知らない市民もいるので、もっと知ってもらい、施設で活発に活動してもらえようと市長から指示を受けている。

(中邨委員長)合併しないのであれば、地域づくり大学は、さらにユニークな特徴を出して線引きすべきである。今年度のプログラムを見て残念に感じたこととしては「学生まちづくり講座」にてデジタルという言葉が一つも出てこない。地域づくりを語る上では、デジタルの視点は必要である。

(事務局)令和4年度はデジタル広報入門講座を実施予定である。

(中邨委員長)相模原市は、都市部と田園地帯がある田園都市である。岸田内閣はデジタル田園都市構想を打ち出している。それを地域づくり大学では、先取して実施すべきである。

(中邨委員長)他の町から事例を学ぶ講座として、本市の姉妹都市はあるか？

(事務局)カナダのトロント、中国の無錫、国内では銀河連邦の各市や町と交流がある。

(中邨委員長)韓国はデジタル化で圧倒的にリードしている。国際交流を含めて、韓国の事例からデジタル化を学ぶ講座を行ってはどうか。実際にデジタルを使って、どのように地域づくりに活かせるかを考えてもらいたい。

(事務局)グローバル化で、様々な事例を学ぶのは良いと考える。市国際課職員による市の講座も実施した。

(水澤副委員長)市民活動サポートセンターでは3区にて予約制で「よろず相談」として、市民活動の方法やNPO運営の相談を行っている。緑区の地域政策課と連携して、今回試しに藤野の森のイノベーションラボで出張相談を行うが、3コマに対し、若い世代4名の相談依頼があった。藤野地域は市民自治がすごく進んでおり、自分達のまちを自分達で良くしていこうという人が移住してきている。オンライン開催などでそのような人たちに自分達の活動やどうやって団体を立ち上げたかなどの経験を話してもらおう講座があると良いのではないか。

また、サポートセンターでは登録団体の基盤強化事業をやっているが、団体内でも高齢化が進み、大学との連携ができないかという話がでる。ユニコ

ムの機能として、どのような大学と連携できるかのアドバイスがもらえるとよい。

(竹田委員)資料3の地域学コースの講座について、簡易版と記載があるが内容については資料があるのか。

(事務局)資料2に記載している。地域学コースの講座として、4コマと短めに受講できるようなイメージである。

(中邨委員長)テーマ実践講座の「シティプロモーション」とはどのような講座か。

(事務局)他の自治体の事例を受講生が自身で調べて、相模原ではどのようなことができるかをワークショップで考える講座である。

(中邨委員長)国は地方創生に力を入れており、国が中央集権的に地域の活力を高める誘導と、地方創生のバックアップとして財政支援をやっている。相模原市は農村部の面積が大きい。シティプロモーションとセットに地方創生を考えてもらいたい。

(中邨委員長)スキル習得講座の「情報発信の極意」のうち、「トラブルにならないための法律入門」は今年から始めたものか。何名受講したのか。

(事務局)令和3年度でも実施しており、講座内容は受講生からも好評であった。

(指定管理者)受講生は6名である。

(事務局)齊藤委員から事前にいただいた意見をお伝えする。

- ・知る・学ぶ、知り合う・語り合う、活動する、創発するというサイクルで学べると良い。
- ・ユニコムならではの講座として、若者が参加する講座を検討するにあたり、学生に意見を聞く際はサポートが可能である。

(中邨委員長)本日の委員からの意見に対する対応内容も出してほしい。

(事務局)承知した。また、今回の運営委員会の意見を踏まえて、講師の調整などを行い、令和4年度の講座構成が確定次第、メール等で連絡する。

(委員一同)承知した。

議 題

3 その他

事務局より、議事録案の作成後に委員へご確認を依頼した後に市ホームページへ公開することと、今回より議事録に委員名を記載する旨説明し、委員より了承を得た。

閉 会

以 上

さがみはら地域づくり大学運営委員会委員名簿

(令和4年2月14日開催)

	氏名	現職	備考	出欠
1	中邨 章	日本協働政策学会 理事長 (地域づくり大学の学長)	委員長	出席
2	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 会長 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)		出席
3	水澤 弘子	特定非営利活動法人さがみはら市民会議 理事 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)	副委員長	出席
4	齊藤 ゆか	神奈川大学 教授 (講座の各分野における関係者)		欠席
5	渡邊 志寿代	市民局長 (市職員)		出席